

鶴見大学生涯学習センター

開設 20 周年記念企画

死生学入門

「死生学」と聞いて、すぐに死後のことを連想する方もおられるかもしれませんが、しかし、それは違います。この学問は、私たちの誰もが必ずやがて迎えることになる死から目をそらさず、いろいろな専門分野の知見を活かしながら、多角的な観点から生きる意味を問い、よりよく生きる道を明らかにしようとするものです。

この世に生を受けた私たちは、「情報化社会」とも呼ばれる時代にあつて、悩み、苦しみ、喜び、悲しみながら、普段は自らの歩みを振り返るとまもなく、毎日をご過ごしています。しかし、それでよいのでしょうか。

また、最近、ターミナルケアの現場や緩和ケア病棟などで患者さんやご家族の相談に応じる宗教者（臨床宗教師、チャプレン）の存在が注目を集めています。

本講座では、先人たちの生き方・死に方に学びながら、生と死が織りなす舞台ともいえるこの世界で「自分がいま生きている」ということの意味を、受講者のみなさんと一緒に静かに考えてみたいと思います。

開催期日 平成 29 年 11 月 17 日（金）、11 月 24 日（金）、12 月 8 日（金） 3 回

開催時間 18：30～20：00

会 場 鶴見大学会館（JR 鶴見駅西口より徒歩 1 分）

受講料 1,000 円（3 回分）

※申込方法、会場案内、お問い合わせ先は裏面をご参照ください。

① 11 月 17 日（金） 鈴木岩弓先生（東北大学総長特命教授）

死者と生者の接点 — 現代日本の「死の文化」—

現在生きている人間は、誰もいつかは「死」を迎える。とはいえ、いずれ迎えるはずの「死」がどのようなものであるかは、誰も知らない。自己の「死」を経験した人は、誰一人としてこの世に戻っては来ないからである。そのため、身近に死者が生じた時、遺された生者は死者との間にさまざまな交流の機会を創出してきた。ここではそれを「死の文化」と呼び、そのあり方について整理することで、現代人の死生観について考えてみたい。

② 11 月 24 日（金） 木村清孝先生（元本学学長、東京大学名誉教授、本学仏教文化研究所特別顧問）

無常のいのちとそれを支えるもの

私たちは、この世に生を享け、それぞれの人生を送り、やがて去っていきます。その主体をかりに「いのち」と名づけます。

本講では、先ず、その無常なるいのちの現実のすがたを見つめます。次に、いのちは「ひとり生まれ、ひとり死ぬ」ものでありながら、実は無数の縁によって成り立っていることを明らかにします。そして最後に、何がそのいのちを支え、それに安らぎをもたらすのかについて考えます。

③ 12 月 8 日（金） 中野東禅先生（京都市龍宝寺 前住職）

患者の苦悩とその解消への道

高齢化社会になって「死」の前を生きることが多くの人の関心事となった。そうした中で患者・家族の心を癒し支える学問がここ半世紀で成熟してきた。

特に緩和ケアの普及や、それに伴う理論の進化などがある。そうした動きを踏まえつつ、患者学・看護法として患者の葛藤を踏まえつつ仏教の智慧を提言いたします。

例えば患者の抱える問題を「五つの自我の混乱」としてそれに対応する智慧を提言します。

鶴見大学生涯学習セミナー 《セミナー申込書》

下記の申込書に必要事項を記入し、FAX 又は郵送でお申込みください。

希望されるセミナーの記号を○で囲んでください。	死 生 学 入 門 T-1			
現住所・連絡先	〒	電話番号 (自宅)	(携帯)	
フリガナ	氏 名		会員番号 ※	性 別
	生年 月 日	T・S・H 年 月 日生		
本学生涯学習セミナーを知ったきっかけは何ですか? ○で囲んでください。	①バス (横浜市営・川崎市営・臨港・神奈中・) ②電車 () ③新聞 (朝日・) ④情報誌 () ⑤インターネット (大学HP・セカンドアカデミー・よこはま福祉保健カレッジ・) ⑥区役所・地区センター () ⑦郵便局 ⑧知人・友人 ⑨鶴見大学内 ⑩歯科医院 ⑪その他 ()			
備 考				

送信先 ⇒ FAX 045-584-4588



鶴見大学生涯学習センター

〒230-0062

横浜市鶴見区豊岡町 3-18

鶴見大学会館内 1階

(JR 鶴見駅西口徒歩1分)

TEL: **045-574-8686**

FAX: 045-584-4588

<http://www.tsurumi-u.ac.jp>

*電話によるお問い合わせ時間
10:00~16:00(土・日・祝日除く)

講座についてのご質問や、資料請求などお気軽にご連絡ください。

パンフレットは無料で発送いたします。お電話またはHPからご請求ください。